

令和7年度

明るいい家庭づくり

優秀作品集



この冊子は明るいい家庭づくりをテーマとした作文・
壁新聞・フォト＆メッセージの優秀作品集です。

豊橋市

豊橋市教育委員会

豊橋市小中学校 PTA 連絡協議会

豊橋南ロータリークラブ

はじめに

家庭は、子どもたちが明るく健やかに生きていくための基礎となる最も大切な場所です。

豊橋市では、家族みんなが顔をそろえ、ふれあいを深めるために、毎月第3日曜日を「家庭の日」とし、よりよい家庭づくりを呼びかけています。また、この「家庭の日」を広く市民の皆さんに知っていただくため、2月を「家庭の日市民運動」強化月間として、「親と子の 対話を作る よい家庭」をスローガンに、家庭の日市民運動を展開しています。

「明るい家庭づくり作文・壁新聞」の募集は、小中学生とその家族の皆さんに、作品づくりを通して家庭の大切さに気づき、明るい家庭についてさらなる理解と関心を深めてもらうことを目的に、昭和58年度から実施しています。

今年度は、市内小中学校から作文276点、壁新聞107点(壁新聞募集は小学生のみ)の応募がありました。また、今年度は豊橋南ロータリークラブの60周年特別事業として「フォト&メッセージコンテスト」を実施しました。

それぞれの作品には、家族とのふれあいを通して感じたこと、家庭に起きたできごとから家族の絆について見直したこと、明るい家庭づくりをするために、自分が実行していることなど、それぞれの家庭の様子が生き生きと描かれています。

ここでは、応募作品のうち、作文・壁新聞・フォト&メッセージコンテストの入選作品の一部を紹介します。これらの作品を通して、みなさんが「明るい家庭づくり」について、考えるきっかけとなれば幸いです。

令和8年2月

作文の部

■豊橋市長賞

「私の幸せな朝」	牟呂中学校一年	山田 彩友美……………1
「使う前よりも・・・」	牛川小学校五年	朝倉 壮一朗……………2
「家族4人で作ったパン」	羽根井小学校三年	山田 華穂……………3
「わたしはおねえちゃん」	牟呂小学校一年	鈴木 つぐみ……………4

■豊橋市議会議長賞

「家族円満の秘けつ」	南陽中学校一年	寺中 芽生……………5
「私の弟でいてくれてありがとう！」	多米小学校五年	柴田 笑心夏……………6
「家族の明るいたまごやさき」	東田小学校三年	小原 奏一郎……………7
「えほんタイム」	向山小学校一年	磯部 一奈乃……………8

■豊橋市教育委員会賞

「「ありがとう」が増える家庭」	東陵中学校一年	西村 りおな……………9
「ぶどう会議」	玉川小学校五年	鎌田 結衣……………10
「びょう気にまけない家族のきずな」	花田小学校三年	北河 世良士……………11
「なつやすみのカフェやさんごっこ」	天伯小学校一年	鶴田 結希……………12

■豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

「僕にとっての明るい家庭」	南陽中学校一年	岩田 虎太郎……………13
「けいやくからのハッピータイム」	多米小学校五年	大原 悠雅……………14
「新しい家族を通して」	多米小学校三年	柴田 類一……………15
「わたしのひいばあちゃん」	大清水小学校一年	有馬 結月……………16

■豊橋南ロータリークラブ会長賞

「私の大切な家族」	青陵中学校一年	矢野 愛莉……………17
「幸せの言葉」	栄小学校五年	岩田 優花……………18
「あいさつから始まる明るい家ていづくり」	玉川小学校三年	高橋 唯斗……………19
「ぼくのたまごりようり」	汐田小学校一年	鈴木 葵士……………20

壁新聞の部

■豊橋市長賞

「DIY」	東田小学校五年	土井 茉莉……………21
	東田小学校二年	土井 七緒……………21
「やってみよう」	豊小学校二年	斗野 綾人……………22

■豊橋市議会議長賞

「りんりん」	幸小学校四年	鈴木 奈湖……………23
「ひまわり」	汐田小学校三年	高坂 琴葉……………24

■豊橋市教育委員会賞

「ダブルシュート！」	豊小学校四年	澤野 瑛斗……………25
	豊小学校一年	澤野 拓斗……………25
「ゆうし」	吉田方小学校三年	梅木 勇志……………26

■豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

「だんご3兄弟」	下条小学校六年	守田 一颯……………27
	下条小学校三年	守田 渚……………27
「ドキドキ」	東田小学校三年	西川 柚希……………28

■豊橋南ロータリークラブ会長賞

「スマイル」	東田小学校六年	袴田 夏妃……………29
	東田小学校四年	袴田 彩夏……………29
「へいわ」	花田小学校三年	田村 優成……………30

フォト&メッセージコンテスト

■豊橋市長賞

「普段は言えない心の声」	牟呂中学校三年	山田 倫大……………32
--------------	---------	--------------

■豊橋市議会議長賞

「みずでつばうたいかい」	松山小学校二年	中川 誠都……………33
--------------	---------	--------------

■豊橋市教育委員会賞

「夏のくつとばし」	松山小学校五年	中川 実桜里……………33
-----------	---------	---------------

■豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

「さいげん旅行」	多米小学校四年	鈴木 蒼依……………33
----------	---------	--------------

■豊橋南ロータリークラブ会長賞

「にっこりこはる」	旭小学校一年	矢野 陽梨……………34
-----------	--------	--------------

■豊橋南ロータリークラブ特別賞

「夢追う後ろ姿」	東陵中学校一年	朝倉 いずみ……………34
「太陽」	南部中学校一年	大橋 湊斗……………34

作文の部

◎豊橋市長賞

私の幸せな朝

牟呂中学校一年 山田 彩友美

「ばあば、おはよう。学校行ってきました。」

「いつてらしゃい」

朝起きてすぐにするこのメールのやりとりは、祖父が亡くなってから始まり、もう四年が経ちました。相変わらず祖母の文章はおかしなところがいっぱいありますが、返事を忘れることはなく、返ってくるスピードは速くなりました。

コロナ禍で母方の祖父が亡くなった時、ずっと会うことができず、やっ与会えたのは亡くなって葬儀場に運ばれた時でした。その時にこんな後悔はもうしたくないと心に決めました。私にもできることはないかという事を考えながら生活をするようになりました。その一つが、遠くに一人にいる祖母との毎日のやりとりです。祖父が亡くなり元気がなく携帯の操作が苦手だった祖母でしたが、毎日のやりとりの中で出来るようになってきて、今では友達とのやりとりもするようになり元気にもなってきました。

そして、私たちはうちの隣の母屋に住んでいる祖父母もいます。毎日母屋に行き朝の挨拶をするところから始まります。毎朝、

「忘れ物はないかん」

「ないよ」

のやりとりがあります。母も同じ事を聞いてくるので同じことが二回あります、これが私のルーティーンです。

祖父は

「おはよう。だれかね？」

と聞いてきます。私の事がわからなくなってしまいました。

「じいちゃん、あゆみだよ。学校に行ってくるよ。」

「そおかあ」

最初、祖父の変化に気づいてはいたものの、なかなか認めることができず、どこかで前のしつかりものの祖父と比べてしまつて、以前の姿に戻つて欲しいという思いが強すぎて、どうやって祖父と関わっていこうかを悩んでいた時期もありました。私のことを忘れているかもしれないと分かった時はショックで言葉が出てきませんでした。日々少しずつ悪化しているようにも感じましたが、悩んでも仕方ないと思い、積極的に祖父と関わることにしました。何回も同じことを聞かれれば、同じことを何度も話すようになりました。

ある日の夜、水道があまり出なくておかしいなと思つていたら外の水道が出っぱなしになっていました。祖父が畑を見に行つた時に出っぱなしにしていました。最初はなんでこんなことをするのだろうと思つていました。すると父が、

「昔は井戸水を使つていたからたまに出しっぱなしにして様子を見ることがあつたんだよ。」と教えてくれました。祖父のしていることには何か意味があるのだなとその時感じました。それからは祖父の不思議な行動もすぐに注意するのではなく、自分なりに考えてから声をかけるようになりました。いつも祖父が注意してきたり怒ったりするのは私が小さい頃のことを思い出しているのだと思ひました。祖父の中では私は小さい頃のままで止まつているのです。今までずっと近くで私や兄のことを見守つてきてくれたのです。今度は私たちが見守つていきたい。以前のど

うしようという気持ちはありませんでした。

最後に、私は身近な人の死から後悔のない毎日を送りたいと日々思ってきました。核家族が増える中、毎日祖父母に関わることができるといふのはとても幸せなことだと思っています。家族の一員として私にできること、そして、それは家族だけでなく、学校でも部活でもクラブチームでも同じで今自分にできることは何かを考え、毎日を大切に生きていきたいと思っています。

今日も元気に

「おはようございます。行ってきます。」

これからもずっとずっと続けていきたい何気ない素敵な一日のはじまりです。

◎豊橋市長賞

使う前よりも…

牛川小学校五年 朝倉 壮一郎

ぼくは片付けが苦手です。ついつい使った物は出しっぱなし、服は脱ぎっぱなし、自分の部屋は床に物が散らばって床が見えません。

そんな生活を続けていたある日、とうとう父から特大の雷が落ちました。「次に使う相手が気持ちよく使えるように使う前よりもさらにきれいにすることを心がけなさい。」

と、たっぷりしられました。

心のまん中に矢がささった様にずうんと落ち込みましたが、落ちついて考えてみると父の言葉はもったと思いました。その次の日から父

に言われた通り、気をつけてみることにしました。

初めは、勉強の後、机に残った消しカスのそうじや出した本を片付けるなど、気合いを入れてやっていたけれど、だんだんと面倒くさくなつてしまい、父から言われた言葉も忘れてまた以前のように、使いつぱなし、脱ぎっぱなし、出しっぱなしの生活に戻ってしまいました。たまに思い出し、また心がけてみるも、初めは気合いが入りエンジン全開になるけれどすぐにガソリンが尽きて、三日坊主で終わってしまう…。そんな日々をくり返していると、また父からの雷です。

「前にも言ったじゃないか！もう少し続けられるように、自分の意志を強く持つて取り組みなさい！」とまたもや鬼のようにしかられてしまいました。自分でも（ああすればよかった、こうすればよかったなあ）と後悔しつつ自分の部屋をながめて見ると、床にレゴが散らばり、母がたたんでくれて、しまいなさいよと渡された多くの洗たく物はタンスの中でぐちゃぐちゃ。机の上はいらないプリントや文房具でぐちゃぐちゃ。自分の部屋が汚いので、ついついリビングで宿題をやりがちなのですが、やりっぱなしで、食卓は消しカスマみれ…。なんとも情けない光景です。確かに気持ちの良いものではありません。母から

「そろそろ夕飯だから食卓を片付けてちょうだい、何この消しカスは！」の声も飛んできます。

そんな中、ひとつ気付いたことがありました。自分の部屋で勉強をしようとしても机の上が散らかっているのを、机を片付けるところから始めないといけません。そのため、片付けているうちに「勉強をするぞ！」という思いが冷め、結局やろうと思っていた勉強ができずにいるということです。

ぼくは思いました。（このままだと、自分で散らかした物を片付けるだ

けで勉強までたどりつけない日々になってしまふーそんなのいやだー」

改めて、父に言われたことを考えてみることにしました。まず、リビングや食卓など家族の共用スペースに出しっぱなしのおもちゃや本を片付けてみました。夕食の時間が近かったので台ふきで机もふきました。するとスツキリとさわやかな気分になりました。父はこうも言っていました。「次に使う人のための場を整える。そうすると、次に使う人が気持ち良く使える。これも思いやりの気持ちの一つ。その積み重ねが明るい家庭を築くことなんじゃないかな。」ぼくはこの家族が好きなので、皆が気持ち良く使えて、家の中に笑顔が沢山ある方がいいなと思いました。

こうして作文にしましたが、まだまだぼくは完璧に出来るわけではありません。たまに父や母からのお小言も飛んできます。でも、次に使う人を思って場を整えるという父の言葉のおかげで、前とは違い肩の力を抜いて、少しずつでもぼくが出来ることを積み重ねていこうという気持ちになっていきます。そんな日々の中で気付きもありました。自分が使った食器は自分で洗うようになりましたが、やる前は、そんな面倒だと思っていたけれど、いざやってみると意外と大変じゃないし、家族も喜ぶし自分もさわやかな気分になります。トイレも汚してしまったらサツとふいて使うようになりました。家の中だけでなく、外でもこの気持ちを大切にしていきたいです。

◎豊橋市長賞

家族4人で作ったパン

羽根井小学校三年 山田 華穂

この夏休み、わたしたち家族4人は、はじめていっしょにパンを作りました。いつもはママが理由を言っていて、わたしや弟は食べるだけ。パパも仕事で帰りがおそいので、4人そろって台所に立つことは、ほとんどありません。でも、この日はお休みがそろって、「みんなでパンを作ってみよう」ということになりました。

まずは、小麦こ、さとう、しお、ドライイースト、水、オリブオイルなどのざいりょうをボウルに入れます。わたしはこなをはかる係、パパは水を入れる係、ママはじゅんばんにざいりょうをまぜます。弟は、「まぜたい」と元氣いっぱいでした。ママが「じゃあ、やさしくね」と言うと、弟はうれしそうに木べらを動かしました。

次は、生地をこねる作業です。こなだったものがまとまって、だんだんパンらしい生地になっていくのがふしぎでした。パパは力が強く、「パパのこね方はすごいなあ。」と思いました。わたしもまねしたけれど、力があるし、手にも生地がくっついて大へんでした。それでも、だんだんつるつるになってきて「パンやさんみたい。」と家族でわくわくしました。生地をボウルに入れ、ふきんをかけてはっこうさせます。そのあいだにおやつを食べたり、おしゃべりをしました。「ちゃんとふくらむかな」と弟が何どもぞくのが、かわいかったです。時間がたつと、生地はふわっとふくらみ、まるで風船のようでした。みんなで「おおー」と声をあげました。

次は、生地を分けて好きな具をのせます。わたしは、チョコレートパン、弟はコーンパン、パパとママはソーセージパンにしました。チョコレートにあまいにおい、コーンのつぶつぶ、ソーセージのジューシーさ、それぞれのパンができあがるのが、楽しみでたまりませんでした。

オーブンで焼き始めると、家じゅうにいいにおいが広がります。やき

上がったパンはこんがりきつね色でおいしそうでした。テーブルにならべて、「いただきます」と声をそろえました。外はカリッ、中はふわふわで家で作ったパンは今まで食べたどのパンよりもおいしく感じました。

今回のパン作りでいちばんすばらしいと思ったのは、家族4人でいっしょによりよりする時間をつくれたことです。ふだんは、それぞれそがしく、全員が同じことに取り組むことはなかなかありません。でも、この日はみんなでわらいながら作業をして、とてもあたたかい時間になりました。

そして発見したのは、パン作りがただのりょうりではなく、家族で過ごすくべつな時間になるということです。自ぜんと会話が生まれ、みんながえがおになりました。わたしは、この日をずっとおぼえていたいです。

◎豊橋市長賞

わたしはおねえちゃん

牟呂小学校一年 鈴木 つぐみ

わたしには、みっちゃんという、よんさいのいもうとがいます。みっちゃん、いつもげんきで、よくおままごとでいっしょにあそびます。しかし、たまにけんかになってしまうことがあります。おもちゃをどちらがさきにつかうかや、おふろのあとにどちらがさきにかみをかわかすかで、めることがあります。だから、みっちゃんとこれからもずっとなかよくいられるように、なつやすみにもくひょうをたてました。

それは、やさしいおねえちゃんになることです。そのために「いっしょ

に」や「いいよ」ということばを、よくつかうことにしました。あるひ、おふろでどちらがさきからだをあらうかで、けんかになってしまいました。そこで、わたしは

「いっしょに、あらいっしょしよう。」

といいました。すると、みっちゃんは

「いいよ。」

といって、わたしのせなかをあらってくれました。わたしも、みっちゃんのせなかをあらってあげて、なかよくおふろにはいることができました。また、おふろをでたあとにも、どちらがさきにかみをかわかすかで、いいあいになりました。そこで、わたしは

「さきがいいよ。」

といいました。すると、みっちゃんも

「いいよ。」

といって、ゆずってくれました。そのあと、なんかいも「いいよ」とゆずりあったので、ふたりでおもわずわらってしまいました。

わたしには、もうすぐあたらしいおとうとがうまれます。わたしは、さんにんきょうだいの、いちばんうえのおねえちゃんになります。みっちゃんやあたらしくうまれるおとうとと、これからもずっとなかよくしたいです。そのために「いっしょに」や「いいよ」ということばをたいせつにして、やさしいおねえちゃんになりたいです。



◎豊橋市議会議長賞

家族円満の秘けつ

南陽中学校一年 寺中 芽生

私の家族が仲がよいのには秘けつがあります。一つ目は、役割を決めることです。特に夏休みや冬休みはお母さんやお父さんは仕事と家事を両方するのは大変なので私は洗たくものをたたみ、妹は食器を洗うなどお手伝いすることで親の負たんがへり家族の時間を作ることができるのでとてもきずなが深まります。

二つ目は、土日などで家に全員いるときのすごし方です。私たちは土日とかは、みなでお昼ごはんを食べながら、今週のできごとを話したりして楽しめます。夕方になると妹の宿題を手伝ったりして一日をすごします。少し前までは十一時までねてたりと起きる時間がおそくあまり家族とのコミュニケーションが取れてなかったので今は少しでもはやく起きるように努力しています。

三つ目は、家族時間の作り方です。家族の時間を充実させるためにポジティブワードで話すことを大切にしています。ポジティブワードで話すコツは、「〜できないんだ。」とあい手をひいてるんじゃないで「〜できたの。」とかあい手をたたえるような言葉で話してポジティブ空間を作るようにしています。家族の時間を一日に十分だけでも作ることで、仲が深まり、よりよい家族のかたちができます。

今の世の中は、戦争やぎゃくたいさまざまな理由で親からの愛、家族のよさを知らない子たちが日本以外にもたくさんいることを知り少しでもそのような子がへるといいなと思いました。

話にもどって四つ目は、おたがいの気持ちを尊重することです。十年以上ずっと一しょにいるともちろん意見がぐいちがうことがあります。意見がぐいちがったからけんかというのはいやなので相手の意見を理解することが大切でひていやぼうげんをはくのではなく、だれが聞いても心地のよい言葉を使って話せるといいなと思いました。まだ私もひていしてしまうことがあるので気をつけたいと思いました。

五つ目は、悪いところは、しっかり注意することです。家族というのはいい子いい子ってしちゃいけないと思っています。理由は、しょう来甘やかしすぎると勉強はできなくてもいいという考えになってしまいうしろろくな大人にはなれないのでお父さんやお母さんに悪いことをしたならしつかり悪いと教えてもらうことがりっぱな大人への道なのかと思います。そのために自分でも意識することが大切だと思っています。まず自分が中心だと思いこまないで周りを見たりして協力したりすればいいことがかえってくるので自分自身努力することの大切さに気づくことは大切だと思っています。

六つ目は、いいことは、ほめあうです。いい所をほめることは一番大切だと思います。理由は、学校や仕事にいくとほめてもらうきかいも少なくなるので、家族内だけでもほめあうことでより仲のよい家ていを作ることが出きます。

もし上手くいかなくてもいいところに目を向けることで成こうのかのうせいもあがります。

この六つを守っている理由は、今、世界中で家族とられない子どもがたくさんいると聞いたからです。そんな人が、たくさんいるなかでしあわせな家ていがあるのにけんかしたり仲悪くしている場合ではなくない？って思ったので、一、役割、二、土日での過ごし方、三、家族時間、四、

おたがいの気持ちの尊重、五、悪いところは注意する、六、いいところはほめあう、だけは、必ず守るようにしています。
これからもこの六つの家族でのきまりをちゃんときっちり守っていき
たいです。

◎豊橋市議会議長賞

私の弟でいてくれてありがとう！

多米小学校五年 柴田 笑心夏

今年の夏休みは、何にしよう、どこへ行こうと家族で色んな計画を立て、話をして、ようやく待ちに待った夏休み初日！私の二つ下の弟が右足首を骨折した。

弟と一緒に所ぞくしているバレーボールチームでの練習中の出来事だった。最初は正直大げさだと思った。年も近く、一緒にいる時間が長いからか、よくケンカをする。練習が中断され、かんとくや、コーチ、チームメイトが心配してかけよったが、私だけは遠くから見ていた。いつもは転んだらすぐ泣く弱虫な弟が、泣かずに、いたそうな顔をしてコーチにだっこされ、歩けないすがたを見て、そこで初めて、いつもの弟となにかがちがう。大変なことだと思い、心の中で弟にちょっとだけあやまつた。

病院のしんさつの結果、右足首の外側と内側の二か所に骨折が見つかった。それから、先生とかんごしさん達が、お母さん達にケガの説明をしたり、弟の足をきれいにしてギプスをまいたり、まつばつえの調節をしたりと、あわただしかった。こうしてケガをした日から、つまり夏休み

の初日から、弟はギプス生活が始まったのだ。

いつも、家にいて宿題をしても、一緒にやろうと言ってとりに来るし、マネばかりして、私が家で遊ぶときは、いつも私の後をついてくる弟。習い事も一緒だから、弟という時間が長すぎて、うっとうしいと思っていた。だけど、弟はギプス生活が始まり、今までのように、私についてこなくなった。弟がケガをして5日、家では1人で好きなことをして遊んで、習い事に行った。いつも一緒に弟がいない。

夏休みの作文を考えようと、一人で部屋にいたときのこと。今日もカタカタと、一階から、まつばつえをつきながら歩く音が聞こえる。そういえば、私も3年前、弟と同じ足首を骨折したなと思い出した。生活の中で、はみがきする時も、顔を洗う時も、誰かに支えてもらってない出来なくて大変だったのを思い出したのと同時に、弟は、今、だいじょうぶなんだろうかと心配になった。

次の日の朝、弟と一緒に起きた。おはようと声をかけ、はみがきと顔を洗うの一緒にいこうと声をかけた。それから毎日、どこへ行くのも、家で遊ぶのも、何をするにも私から声をかけた。夏休みの宿題をやるのも、遊ぶのも、はみがきする時も、お風呂に入る時も、いつも一緒だ。もちろん、お母さん達がサポートをしてくれながらだけど、私も私にできる全てのことは、誰かにお願いをされたわけではなく、私が弟と一緒にいたかったからやった。

私はそこで、自分が今まで、弟に対して、うっとうしいなと思っていたことをすごく反省した。それに弟が後をついてきてくれないさみしさも感じた。ケガをしてからの伝いだって、私が弟と一緒にいたくてしてるだけなのに、弟はいつも通りの笑顔で

「ありがとう。」

と言ってくれた。私は弟に

「にこなは、るいくんのお姉ちゃんなんだから甘えて良いんだからね。」と伝えた。

私にとって、弟は、いつも当たり前近くに存在ただけだったけど弟がケガをしてから、毎日弟と一緒に歩いて学校へ登校できるありがたみや、弟と一緒にだから毎日楽しく宿題ができたり、弟と一緒にだから習い事も集中して通えるし、弟と一緒にだからこそ遊びも楽しいことに気付いた。

きょうだいは、仲良しな時もあればケンカもする時もあった、いつも当たり前近くにいるからこそ、大切さを見失ってしまうかもしれないけど、私は、弟がいて本当に良かったと思った。そして、今年の夏休みも、これからの毎日も大好きな弟とたくさん遊んで、たくさんケンカをしなから、私の弟でいてくれることにかんしゃを伝えたいと思う。

◎豊橋市議会議長賞

家族の明るいたまごやき

東田小学校三年 小原 奏一郎

お母さんが、いつもおべんとうのときにたまごやきを作ります。作っているところを見ているうちにかんたんにできそうだとおもってたから「ほくも作れるかな」と、お母さんに言いました。

「作ってお母さんのおべんとうの中に入れて」と言われました。たまごやきの作り方は、お母さんが作っているのを見

ていたから、自分でさいしょから作ってみました。さいしょは、たまごをフライパンにぜんぶ入れてしまったので、中みがすすかでした。あじもつけなくてかたちもうまくできませんでした。でも、お母さんは、よろこんで

「あしたのおべんとうにもっていくよ」

と言ってくれました。たべてみると、あまいあじがませんでした。つぎは、もつとおいしいたまごやきを作りたいと思いました。たまごやきの中に何を入れておきかえると、お母さんと子どもたちは、さとうをいれたあまい味で父さんは、だしのきいた、たまごやきだとおしえてもらいました。ほくのおべんとうにいつも入っているのは、あまいたまごやきだったからびっくりしました。

「たまごやきの味をかえてもいいの？」

とお母さんにきいたら、

「たまごやきの中には、何を入れてもいいよ。お母さんは、あまいやつがすきだよ」

とおしえてくれました。そこで、ほくは、かんがえました。家族のすきなものを入れたら、みんながよろこんで、くれるとおもいました。お母さんとスーパ―に行つてなに入れてようかぐざいをさがしました。お父さんは、おすしやさんに行くときとぜつたいに生しらすをうれしそうに食べます。だから、しらすとネギをえらびました。さつそく、だしとしらすとネギを入れた、たまごやきを作りました。しっぱいしないように、弱火でゆつくりやきました。ぐざいが入っていると、かたまりにくくなつたけど、なんとかできました。お父さんに食べてもらつたら

「おさけにあうなあ」

とよろこんでくれました。つぎにおねえちゃんに、どんな味のたまごや

きがいにかきいたらお母さんとおなじで

「あまいたまごやきがいい」

と言ってくれました。おべんとうの日に、自分でかんがえて、さとう、だししょうゆ、かくし味にみりんを入れたたまごやきを作りました。味は、どうだったかきくと、

「めっちゃおいしかった。みんなに弟が作ってくれたよ」

と言ってくれました。お母さんは

「あまくてお母さんごのみの味」

とかんそうを言ってくれました。ぼくは、うれしくてまたいろんな味を作ろうと、思いました。これからも、みんなが好きなものをかんがえて、たまごやきの中に入れて食べたときに、家族がおいしいと言ってくれる明るいたまごやきをたくさん作りたいです。

◎豊橋市議会議長賞

えほんタイム

向山小学校一年 磯部 一奈乃

よるのおふろのあとは、かぞくみんなでえほんをよむじかんです。わたしは、はやくおふろにはいります。いちばんにおふろからでたひとがさいしょによむえほんをきめるからです。ほんだからいつさつえらんで、みんなでよみます。

わたしがだいすきなほんは、もんだいにかいてあるものをえのなかからさがすほんです。いつもさいしょにそれをえらびます。おかあさんはすぐにみつけます。わたしといもうとは、

「ずるい」

といってすこしおこります。みつけれなくてくやしいきもちになります。でも、すぐわかつてすごいなっておもいます。つぎのもんだいはさつきよりがんばるぞとおもってかんがえます。そしたら、つぎはおねえちゃんがかたえをいいます。わたしはくやしくてもっとやりたくなります。つぎはさいしょにみつけないからです。おかあさんがすこしヒントをくれます。そうするとこたえがわかります。せいかいしたらもっとやりたくなります。つぎは、ヒントなしでひとりでみつけないからです。おとうさんは、わたしよりみつけるのがおそいです。わからないとおもしろいことをいって、みんながわらいます。さいごはむずかしいもんだいをみんなでかんがえます。きょうりよくしてぜんぶわかったら、みんなでよろこんでタッチをします。

おばあちゃんがきたら、おなじほんをいっしょによみます。わたしがすぐみつけるから、

「はやくみつれてすごいね。」

って、なんかいもほめてくれます。ほかにもわたしがほんをおんどくすると、

「そんなにじょうずによめるんだね。」

って、よろこんでくれます。いっぱいほめてもらえてすごうれい입니다。わたしは、えほんタイムがだいすきです。ちいさいときによんだほんもいっぱいおぼえます。おおきくなっても、ずっとかぞくでほんをよみたいのです。

◎豊橋市教育委員会賞

「ありがとう」が増える家庭

東陵中学校一年 西村 りおな

家の中の空気を、もっと明るく、気持ちのいいものにしたと思うようになった。何か特別なことをするわけではなく、今の私にできる小さなことから始めてみようと考えた。そして、私が決めたのは、「いただきます」と「ごちそうさまでした」を毎日きちんと言う、ということだった。

私は、「ありがとう」などの感謝の言葉を言うのが少し苦手だ。家族に向かって言うのが、なんだか照れくさく感じてしまうからだ。でも、あさつなら自然にできるし、伝えたい気持ちもこめられると思った。

夕方になると、家族みんなでご飯を食べる時間があります。私はその時間をもっとあたたかく、明るくしたいと思い、毎日「いただきます」「ごちそうさまでした」をきちんと言うことにしました。

毎日、ご飯のことだけじゃなく、「おはよう」「こんちは」などのあさつを、大事にするようにしたら、家族の反応が少しずつ変わってきた。おばあちゃんが笑ってくれたり、

「ちゃんとしててえらいね」

と声をかけてくれるようになった。そんな反応を見て、私もうれしくなり、もつとがんばりたいと思った。

また、最近ごはんの準備や片付けも少しずつ手伝うようにしている。お皿を運んだり、犬と遊ぶようにしたり、そういったことを通して家族との会話が増えた。前よりも「ありがとう」と言われることが増えて、なんだか自分が家族の一員として役立てているような気がした。

私は今まで、家庭の雰囲気は自然とできあがるものだと思っていた。でも、自分の行動や言葉で変えていくことができると分かった。明るい家庭には、あさつや感謝、そして小さなお手伝いなど、ちょっとした行動の積み重ねが大切なのだと思う。

これからも、家族みんなが気持ちよく過ごせるように、自分にできることを考えて、少しずつ行動していきたい。そして、笑顔があふれるような家庭を、自分の力でつくっていったらいいと思う。

そして、家庭の雰囲気をもっとよくするために、新しくやってみたこともあります。それは、自分から話しかけることです。ご飯を食べている時などに

「今日、学校でこんなことがあったよ。」

と自分から話すようにしています。そうすると、おばあちゃんやおじいちゃんが笑ってくれたり、お父さんが話しにのってくれたりして、会話がふえるようになりました。話すことが増えると、なんだか心の距離も近くなったような感じがして、前よりも家の中があたたかく感じられるようになりました。

それから私は「ありがとう」や「ごちそうさま」だけではなく、「おいしかった」とか「今日もつくってくれてありがとう」など、自分の気持ちを言葉にすることも大事だと思うようになりました。小さいことだけど、言われた方もうれしそうで、やってよかったと思えます。

私は、明るい家庭というのは、いつも笑っているとか、にぎやかであることだけじゃないと思います。おたがいを思いやったり、ちゃんと気持ち伝えたりすることで、心があたたかくなるような家庭が、本当に明るい家庭だと思います。

これからも私は、できることを少しずつ続けて、家族との時間を大切

にしていきたいです。ご飯と一緒に食べる時間や会話のひとことひとこととを大切にしながら、自分から明るい家庭づくりができるようにがんばりたいと思います。そのためにも、これからもいろいろな話をしたり、手伝いをしたりして、自分から家族と関わっていききたいです。たとえば、夕ご飯の前にお皿を並べたり、食後にお皿を運んだりすることも、私にできる大切なことだと思います。

小さなことでも、「ありがとう」と言ってもらえると、うれしくなります。そうやって、家の中にやさしい気持ちがあふえていけば、もっと明るい、ここちよい、家庭になると思います。

◎豊橋市教育委員会賞

ぶどう会議

玉川小学校五年 鎌田 結衣

私は夏になると楽しみにしていることがあります。おじいちゃんが作っているぶどうが毎日食べれることです。スーパーで買ってきたぶどうよりもおいしくて私は大好きです。明日は食べれるかなあと朝学校に行く前にぶどうチェックをしています。その日もあともう少しで食べれるぞと日課のぶどうチェックに行くと、いつもと何か様子が違っています。地面にはぶどうの皮が散らかっています。

「おじいちゃん、大変大変。ぶどうが食べられてる。」

「こりゃあハクビシンの仕業だな。」

食い散らかされたぶどうの皮を見たおじいちゃんは困った顔をしています。

その日の夜にわが家では、緊急会議が開かれました。私はこの会議を「ぶどう会議」と呼ぶことにしました。まず、ハクビシンについて私が調べたことを発表します。

「ハクビシンは、ひたいから鼻先にかけて白い模様があり、雑食性でなんでも食べる。夜行性で夜に活動する。明るい場所、におい、音が嫌いだいだよ。」

「よし、わかった。お父さんに任せろ。」

そう言うとお父さんは何かを始めました。「照明作戦」 お父さんはぶどうの木の下をタイマーで電気が点くようにしました。急に明るくなることで、ハクビシンは驚いて来なくなると考えたようです。三十分おきに電気が点いてぶどうがライトで照らされています。

次の日の朝は、少し早起きしてすぐにぶどうをみにいきました。すでにお父さんとおじいちゃんがそこにいて二人とも困った顔をしています。まさかと思い近づく、地面にはまたぶどうの皮が散らかっています。

「照明作戦は失敗だ。」

お父さんが残念そうに言います。

第二回ぶどう会議。今回はお母さんがおい作戦を試してみてもうかと提案します。そこで、今回は蚊取り線香を一晚ぶどうの下に置いて様子を見ることになりました。照明作戦もやめずに続けます。

おい作戦失敗。次の日の朝もぶどうの皮が散らかっています。私が楽しみにしているぶどうがまた食べられてる。ハクビシンは怪盗ルパンのようです。光も匂いも嫌いなはずなのに何で食べられるんだろう。

学校から帰ると、ぶどうの実の下にネットがはられています。おじいちゃんがニコニコしながら来ました。

「最終兵器、ネット作戦だ。下からどれだけジャンプしてもハクビシンは

ぶどうを採ることは出来ないぞ。」

と得意げな顔をして、私に説明してくれました。でも、実はおばあちゃんの提案でした。その日の晩は、照明作戦、におい作戦、ネット作戦でハクビシンと勝負です。これだけやれば大丈夫とみんな安心してその日は寝ました。

ハクビシンの勝利。ここまでやつても何故かまた食べられてしまいました。

「こういう時はハクビシンの気持ちになるのが一番だ。」

と名探偵おじいちゃんは地面に手を付いて辺りを見渡します。するとハクビシンのまねをしたおじいちゃんがぶどうの木に近づき、何かを見つけたようです。

「わかったぞ。ハクビシンは木を登って上からぶどうを食べていたんだ。」木の幹には動物が木を登った爪のあとが付いていてどのように移動したかがわかりました。すぐにおじいちゃんが段ボールで木の幹に囲いをし、ハクビシンが木に登れないようにしました。

翌朝、ドヤ顔のおじいちゃんがぶどうの木の下に立っています。お父さんとお母さんはおじいちゃんとなりで姉と私にピースをしています。それからぶどうはハクビシンに食べられていません。ひとつ、ふたつと私の口の中に吸い込まれていくぶどうちゃん。これまでもおじいちゃんのぶどうはおいしくて大好きだったけど、今年のぶどうは全員でハクビシンと対決し、勝利したせいかな特別においしく感じます。



◎豊橋市教育委員会賞

びょう氣にまけない家族のきずな

花田小学校三年 北河 世良士

「おおばば、おなかのちようしがよくないから、けんさするつて。」お母さんが言いました。

ぼくの家族はとてみなかよしです。今年のおぼんはみんなでバーベキューをしました。全員で十八人です。みんなでお正月、ゴールデンウィーク、おぼんにあつまつて、おおばばの作ったごはんを食べます。おおばばは、ぼくのひいおばあちゃんです。やさしくて、りょうり上手なおおばば。大すきなおおばばは、今いろいろなけんさをしています。大きなきかいに入るCTけんさや、一日ごはんを食べずにする大ちようカメラのけんさ。けんさのけつかは夏休みがおわってから分かります。先生は「がんでまちがないだろう。」

と言いました。ぼくはとてみなかなくて、心ばいになりました。

ぼくには、お兄ちゃんがいます。ぼくたち兄弟は生まれつきめんえきのびよう氣で、何でも入いんしていました。一さいのころに「さいたい血いしよく」という大きな手じゅつをしました。お母さんやお父さんに聞くと、お母さんといっしょになごやのびよういんにいたそうです。お父さんはしごとがあるので、休みの日にはかならず会いに来てくれました。お父さんが来ると、ぼくはすぐよくこんだそうです。

お母さんはびよういんでよくといっしょにねて、毎日コンビニのおべんとを食べていたそうです。でも、おばあちゃんとはよはしから来てくれる日は、手作りのおかずを持って来てくれて、うれしかったと話し

ていました。

「大へんなことはたくさんあったけど、家族のささえがあったからがんばれたんだよ。かなしいけど、びょう気で家族がバラバラになってしまうこともある。でも、わたしたちはだんけつしてびょう気にかつことができたんだよ。」

とお母さんは言いました。

今は、おおばばのびょう気をなおすために家族みんなでだんけつしています。お母さんはびょういんにいっしょに行き、おじいちゃんおばあちゃん、おじさんおばさんも、みんなでおおばばをささえています。ほかも電話で

「そろばんに行ったよ。お昼は焼きそばだったよ。」

と話します。おおばばは

「みんなが毎日電話をくれるから、かなしむひまがないよ。」

とわらいました。おおばばがわらっていてほくは安心しました。

お母さんが

「おおばばは、せらしと話すとき楽しい気持ちになれると思うよ。」

と言いました。だからほくは、たくさん会いに行つて、会えない日は電話でたくさん話そうと思います。ほくがおおばばを元気にしたいです。ほくたちがびょう気にかてたように、家ぞくみんなでだんけつすれば、おおばばもびょう気にかてるとしんじています。ほくたち家族のきずなは、つよいんだ。だから、ぜつたいにだいじようぶ。

◎豊橋市教育委員会賞

なつやすみのカフェやさんごっこ

天伯小学校一年 鶴田 結希

わたしは、なつやすみにおかあさんといっしょにカフェやさんごっこをしました。おうちであさごはんのじゅんぴをいっしょにやってみしました。

さいしょに、メニューひょうをつくるころからはじめました。なんのごはんにするかをきめたり、もじをかいたりするのがたいへんでした。みんなにわかりやすいように、えもいっしょにかきました。

メニューひょうができたら、わたしがひとりひとりにちゅうもんをとりました。

「ばんはなににしますか？たまごはめだまやきとすくらんぶるえつぐがあります。」

とか、ちゃんときいてから、たのまれたちゅうもんをおかあさんにつくってもらいました。

できあがつたものをつくえにもっていきました。はじめてだったので、ちよつとどきどきしました。でも、うれしかったことは、みんながここにこえがおでたべてくれたことです。

わたしも、ほんもののカフェやさんになったみたいでしたのしかったです。でも、ちよつとたいへんなこともありました。みんなのちゅうもんをきいていたら、じぶんがたべたかったものが、なくなつてしまいました。そのときはかなしくなりそうだったけど、いもうとがわけてくれました。

こんどはじぶんのぶんもよけておこうとおもいました。

このたいけんをおして、ほんもののカフェやさんは、ひとりひとりにやさしくちゅうもんをとって、ていねいにおしごとをしているんだなとわかりました。

こんどは、もつとじょうずなおてつだいカフェをひらいて、みんなをにこにこにしたいです。

◎豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

僕にとっての明るい家庭

南陽中学校一年 岩田 虎太郎

明るい家庭って何だろうと、僕は考えてみました。明るい事と言えば、色んな意見があると思います。

例えば、僕だったら、学校へ行く時に母さんが大きな声で

「いってらっしゃい！」

って言うってくれる事だったり、学校から帰宅した時に父さんが

「おかえり」

って言うってくれる事。

自分がすごく辛い時や悲しい時に、そつと掛け寄って自分の気持ちを優しく受け止めてくれたり、元気付けてはげましてくれたりする事などがあると思います。

協力し合うことも、明るい家にするためにはものすごく必要なと感じます。

例えば、自分の部屋の片付けだけでなく、たまにはお風呂そうじ

とか、ご飯の準備とか、ゴミ出しをしたりとか、できることから積極的に手伝うようにしています。

手伝いを始めた頃は、「面倒だなあ」って思うこともあったけど、父さんと母さんが、

「ありがとう、すごく助かったよ」

って言うてくれると、「よし！」って前向きな気持ちになりました。

家族皆んなでリビングに集まって、テレビを観て心の底から大笑いしたり、休みの日には僕が好きな海を見に行ったり、美味しい料理を食べたりする時も僕の中ではとても「明るいな」と感じました。

自分の中で何か大きな壁にぶつかって、自分一人じゃどうしようも出来なくて困ったりした時には、父さんや母さんからアドバイスをもらったり、相談することで勇気付けられたりすることもあります。

そんな風に毎日毎日明るい時じゃなくて、例えば僕の場合だと勉強が大変な時に父さんが勉強を教えてくれるんだけど、なかなか僕が理解出来なくてしかられたりしていると母さんが入って来て両親が口げんかに発展して、少し悲しくなったりします。

でも、それでも僕が「答えが分かった！」ってなると両親の口げんかがおさまって、2人とも自分の事のように喜んで、ウソみたいに明るい雰囲気になったりします。

こんなのも明るい家庭の一部なんじゃないのかな？って僕は思います。僕にとっての「明るい家庭」は、家族みんなが笑顔でいられることだったり、毎日の中にある「幸せ」を感じること。そして家の中が明るいと学校での失敗で落ち込んだりした時も、「家に帰れば大丈夫」って心から思えることです。

でも、この作文を書くために、父さんと母さんと僕の3人で色々と話

しをしていくうちに、僕は少し思いました。ずっと『明るい』と、疲れちゃうんじゃないのかなと。

もちろん、元氣付けてほしい時もあるけれど、ほんの少しだけけれど、自分一人だけでいたい時もあります。父さんだって母さんだって、いつもニコニコで明るい時ばかりじゃないし、そんな時に無理矢理明るくするのはまた違うんじゃないかなと考えたりもします。でもきつと父さんも母さんも、僕が元氣が無かったり悲しい気持ちを隠していても、すぐに見抜いて明るく声を掛けてくれるのかなとも思います。

『明るい家庭作り』という題材で話してみても気が付いたのは、ただただ『明るい』だけじゃそれはそれでダメなんじゃないのかという疑問でした。時にはケンカしたり、悩んだりして、明るいだけじゃなく、他の人から見たら暗く見えてしまうような事だったり、乗り越えることで『本当の明るい家庭』になっていくんじゃないかと思います。

『家族みんなが笑顔でいられること。』

これから大人になっていく中で、色々な事があるけれど、僕にとつての『明るい家庭』をずっと作っていきけるように、頑張っていきたいと思っています。

◎豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

けいやくからのハッピータイム

多米小学校五年 大原 悠雅

ぼくは、ミニバスに入っている。すごいスピードで走り、高くジャンプしてシュートを決める姿がかっこよく、「ぼくもやってみたい」と思っ

たからだ。

だが、実際に始めてみると、思ったよりずっとうまくいかなかった。走るのは得意なので、ディフェンスで相手を追いかけるのは楽しいし得意だ。しかし、ドリブルやハンドリングが苦手で、試合で思うように攻められない時がある。せっかくパスをもらっても、思うようにボールがコントロールできない。試合のビデオを見ると、自分が思うように動いていない。何度もそんなことがあると、自分には向いていないのかなと思うこともある。うまくいかない、くやしだけれど、どうしてよいかわからず、練習日以外はボールをさわることがなくなってしまった。

ある日、コーチに、

「最近、ハンドリングの練習していないな。」

と、言われた。ぼくは、ドキットとした。全然上達していないので、練習してないのに気付いたのだ。コーチから、

「できないからといってにげていたら、いつまでたっても上達しない。毎日コツコツやるのが大事だ。」

と言われた。ぼくはその言葉に、このままじゃダメだと思った。それから、コーチと「毎日必ずドリブルとハンドリングを練習する」という「けいやく」を結んだ。ぼくはカレンダーに練習した日はチェックをつけ、「今日はちゃんとやった」と確にんできるようにした。しかし、一人で毎日続けるのはむずかしく、気がゆるみそうになった。そんな時に母が、「受験も終わったし、お兄ちゃんに教えてもらったら？」

と、言ってくれた。ぼくは四人兄弟の次男で、高校一年生の兄がいる。兄もミニバスに入っていたし、中学でもクラブチームに入っていて、何度も勝利している姿を見てきたし、高校でもバスケットボール部に入っている。ぼくは少しはずかしかったが、

「ドリブルとハンドリング練習をいっしょにしてくれない?」

と、兄にたのんでみた。すると、兄は、

「おう、いいよ。外でやろう。」

と、すぐに答えてくれた。それから、兄がいる時はいっしょに外でドリブルやハンドリング練習をするようになった。兄は、

「最初からうまくできる人なんていない。おれも、苦手だったけれど、小学五年生の時に、コロナが流行して練習も試合もなくなってしまっただけ、それから家で練習するようになってから上達した。試合ができるだけ、うらやましいよ。うまくなりたいたいなら、続けることが大事だよ。」

と、自分の話をしてくれた。兄といっしょに練習をはじめてから、ぼくは前より少し自信がもてるようになったし、兄に勝ちたいきもちもでてきて、毎日練習をがんばっている。すぐに上達はしないが、できることも増えて、「やればできるかもしれない」と思えるようになった。また、兄とぼくが外で練習していると、妹二人も外に来て兄弟四人で、過ごす時間もふえて、笑い声もふえた。父もまじっていっしょに練習をすることもあるし、母にも、

「毎日練習を続けてえらいね。」

と、ほめてもらった。

ぼくにとって「家族」とは、それぞれのことをおうえんしあい、つらい時や大変な時にも支え合える場所で、がんばっていることをみとめてくれたり、いっしょに喜んだり、笑ったりできる場所だ。これからも練習を続けて少しずつ上達して、いつか妹にも、

「バスケットボールを教えて。」

と、言われるような兄になりたい。家族みんなが、笑顔で色々なことにチャレンジできる明るい家庭を、これからも大切にしていきたい。

◎豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

新しい家族を通して

多米小学校三年 柴田 類一生

今年の夏、ぼくの家族は、6人家族になった。お父さんお母さん、お姉ちゃん、弟、ぼく、そして家族でたくさん話し合って、新しく仲間入りした、犬のハティだ。

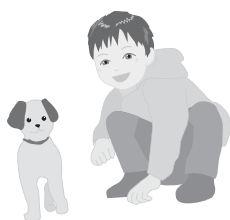
7月14日、学校から帰って来たらハティが家にいた。ぼくはもう、うれしくてうれしくて、早く遊びたかったけど、ハティが新しいかんきょうになれるまでは、まだ遊ばなくてケージから出せないのを聞いていたから、ハティのためにがまんした。

それから1週間たち、ハティも家になれてくれて、いっしょにボールで遊んだりした。ぼくは、夏休みに入ってハティのご飯のじゅんぴや、トイレそうじ、ケージのそうじ、ダメなことはダメとはつきり、しつけしているお母さんを見た。ハティのことい外にも家のこと、ぼくたち兄弟のこと、仕事のこと、たくさんやらなきゃいけないことがあるお母さんは、大へんそうだけど、いつもえ顔だ。ハティのうんちはクサくて、はなをふさぎなくなるのに、イヤな顔しないでうんちしてすごいねと言って、ティッシュでうんちを取っている。お母さんに、イヤじゃないのか聞いたら

「ママからしたら、ハティもるいくんと同じ、かわいいママの子どもだからイヤなわけないしるいくんが赤ちゃんの時も、うんちしたオムツかえてイヤだと思ったことなんて一回もないよ。」と言った。

そういえば、ハティがおすわりが出来るようになったときも、トイレをおぼえたときも、家族の中でお母さんが1番ほめていた。ハティがかんだりするとダメ！とおこるのもお母さんだ。それと同じように、ぼくが、何かががんばったことがあると、やっぱり1番ほめてくれるのもお母さん。わるいことをしたらしかつてくれるのもお母さん。ぼくは心が幸せな気持ちでいっぱいだった。お母さんは、きつと、ぼくが生まれた時から、こうして、大切にやさしくあいじょういっぱいに育ててくれたんだと、よく分かった気がするからだ。二年生の時に、おい立ちのじゅぎょうで、自分が生まれた時から、のせい長をふりかえる時に、お母さんに、ぼくの母子手ちょうを見せてもらったことがある。お母さんが書いたぼくのせい長記ろくには、どの文にもかならず、大好き、大事、宝物、いとおしい、という言葉がたくさん書いてあつて、ぼくはお母さんにとっても大切にされて生きてきたんだと思つた。

ハティという新しい家族を通して、責にんをもつてお世話することのたいへんさ、大切さを知つた。ぼくが、この家族の元にうまれてきてしあわせだと思ふように、ハティにも、ぼくたち家族のところに來てしあわせだと思つてもらえるように、お世話をしたい。そしてぼくは、これからお母さんお父さんにかんしゃの気持ちをわすれずに、6人家族になつた大すきな家族と、これから楽しく1日1日を大切に生きていこうと思ふ。



◎豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

わたしのひいばあちゃん

大清水小学校一年 有馬 結月

わたしには、すこしはなれたとこにすむ、ひいばあちゃんがいます。ひいばあちゃんは、わたしやきょうだいのたんじょうび、クリスマスやひなまつりなどのぎょうじのときになると、てがきの「てがみ」をおくつてくれます。すぐキレイなもじで、それにライNSTOONアートをしてくれてキラキラしたおてがみだったり、とびだすおてがみだったりするときもあつたりとどくのがまいかいのたのしみです。

わたしはてがみがとどくとおかえしのでがみをかきます。さいきんのできごとをえやもじにしてひいばあちゃんにかきます。そんなひいばあちゃんとのやりとりがわたしは、だいすきです。

いまは、べんりなきかいがいっぱいあるけど、てがみは、もじでかくので、きもちや、ころがつたわるつてわたしはおもいます。なかなかあえなくてさびしいけど、あえないからこそのでがみのやりとりができることもうれしいです。ずつとこのやりとりをつづけてくれるひいばあちゃんには、かんしゃのきもちでいっぱいなのと、わたしのじまんのひいばあちゃんです。

ながいやすみであえたときは、いっしょにえをかいいたり、おりがみしたり、ぬりえをしたり、いろんなことをおしえてくれたり、あそんでくれます。

ひいばあちゃん、「これからもずつとてがみこうかんしようね」、これからもずつとつづけていきたいです。そして、げんきにながいきしてね。

◎豊橋南ロータリークラブ会長賞

私の大切な家族

青陵中学校一年 矢野 愛莉

私は、小さい頃から本当に周りの人達に恵まれていると思います。すてきな家族、応援してくれる親せき、優しい友達、みんな私の大切な人達です。そんな私ですが、小学校の頃までとても大きなかんちがいをしていました。

私の家は、シングルマザーなので祖父母達と、一緒に住んでいます。お母さんは仕事で忙しく、私が寝ているときに仕事から帰って来て、「おかえり、仕事お疲れ様」や「いつてらっしゃい気をつけて」も言えない生活が毎日でした。なので、習い事などの送り迎えは祖父が、一日の家事や食事作りは祖母がやっていました。この日常が普通かと思っていました。ですが、友達の日常は、お母さんが家事と習い事の送り迎えをやり、お父さんが仕事から帰って来て一緒に晩ご飯を食べる、そして祖母と学校のことを話をする。そんな友達の日常を聞いた時、私の家の日常は少し違うのかなと疑問に思いました。私の心の中で、ずっとモヤモヤしたまま一日過ごしました。小学生の頃の私にしては、よく考え、一つ私が忘れかけていたとても大切な答えを導き出すことに、成功しました。その答えとは、なんでも当たり前とかんちがいをしていたことです。お母さんが仕事をしていて当たり前送り迎えして当たり前前、家事をしていて当たり前と私はかんちがいをしていて「ありがとう」の言葉、思いを忘れていました。その一言、たったの一言でお互いの心のぽとした気持ちになるのに。なんで言えなかったんだろうとすごく後悔しました。

中学生になった時、しっかりと「ありがとう」などの感謝が伝えられるようになりたいと思いました。ご飯を作ってくれたことに、「いただきます」や「ごちそうさま」、送り迎えをしてくれて「ありがとう」一つ一つていねいに言いました。最初は、「ありがとう」と言うことがはずかしかったです。「ありがとう」を言い続けて一ヶ月、前ではなかった日常での会話が増えました。そして家族に笑顔も増えました。いつしかお母さんに「ありがとう」って言うようになって「ありがとう」と言ってもらえるようになりました。たった一言、大事な一言をお互いに言える、人に感謝される行動をやるし、それを見つけたら「ありがとう」と感謝のできる私の家族は本当に自慢です。毎日、私の為に一人で働いてくれているお母さん、家事や食事作りをやってくれているおばあちゃん、小さい頃からお父さんのいない私にお父さんのようにふるまってくれたおじいちゃん。私は家族に言い表せないほど「ありがとう」の感謝でいっぱいです。私の周りの人は本当にすてきな人達だけです。なので私もその人達を見習って、困っている人に対してやさしく接してあげられる人になりたいです。そして、私の思いが少しでも多くの人に共感してもらい、一人でもこのような人達が増えてほしいと心から思っています。だって、そんな人達が増えたらきっとみんなが幸せで、笑顔の日々を過ごせると思うたからです。

家族は、私に「ありがとう」と感謝の大切さを学ばせてくれました。本当にすてきな家族です。読者のみなさんは、家族からどんな大切なことを学びましたか。そしてあなたにとって家族とはどんな存在ですか。私は、この作文を書くことによって、家族がどんなことを教えてくれたのかをあらためて知ることができました。ぜひ読者のみなさんも家族について書いてみてください。そして、家族の大切さ、偉大さについてき

と気づくことができます。

◎豊橋南ロータリークラブ会長賞

幸せの言葉

栄小学校五年 岩田 優花

「あいさつは言ったもん勝ちだよ。」と、この言葉は母の口ぐせである。どういふ事なのかあまりピンときていなかったけれど、最近になってようやくこの言葉の意味や大切さがわかったような気がする。あいさつは人からされるのを待つのでなく、自分からしようと心がける事が大切なのだと思う。私は七十五世帯ほどが入るマンションに住んでいる。エレベーターホールや出入口で住民とすれちがう事が多く、あいさつをする事を心がけている。ほとんどの大人はあいさつをしてくれる。しかし毎回あいさつをしても返してくれないご年配の夫婦がいる。耳が聞こえないのかと思ひ少し大きな声であいさつをしても目は合うがあいさつの返しが無い。私はとても悲しくなる。悲しいだけではなく何か悪いことをしてしまったのではないかと心配になる。ある時、その夫婦の小学校入学前くらいの小さな孫が遊びに来ていた。おどろいた事に孫と一緒に時はあいさつをしてくれたのだ。どういふ事かわからなく家族に聞いてみた。

「どうしてかわからないけれど耳が聞こえない方ではなかったんだね。これからも返しがなくてもあいさつはしていきたいよね。」

と母は言った。私も子供ぎらいの方ではなくて、孫に会える日が少なくてさびしく思っているからあいさつをしないのかもと思うようにした。

人の気持ちちは、話したり聞いたりしないとわからない。ネガティブに考えると私の気持ちまでしずんでしまう。

小学校登校時間に中学生の姉が小学校正門であいさつ運動をしていていた。私はうれしくてお友達に、

「私のお姉ちゃんがいさつしているんだよ。」

と伝えた。下を向いて歩いていてあいさつをしていなかったようだ。そのお友達は姉にあいさつをするために早歩きで正門までもどった。私も姉もお友達もあいさつが出来てなんだかうれしくて笑顔になった。やはりあいさつは言ったもん勝ちだ。ちょっとした事かもしれないけど幸せな気分になれる。また、私の小学校でも学年で決めて学期ごとにあいさつ運動をする。その時は学年のちがう知らないお友達にもあいさつをするのでいつもよりは少しきんちようしたけれど、あいさつをしてくれるととてもうれしくなる。だんだんときんちようがなくなつて私のあいさつをする声も大きくなる。先生も生徒も笑顔で一日がスタートする。このあいさつ運動をする期間がとても好きだ。

東京に住んでいる祖父は家庭菜園で野菜を作っている。今の時期だとトウモロコシ・オクラ・赤と黄色のトマト・スイカ・ナスその他にもたくさんある。七月十三日から十五日、東京のおぼんの時に二日間ラーケーションを取つて遊びに行った。畑で食べる真っ赤にじゅくしたトマトは最高においしくて自然と祖父にありがとうと伝えていた。十三日にご先祖様をおむかえする。おがらのけむりにのせ祖父が作つてくれたナスの牛ときゅうりの馬を持ち、ちようちんを手になっている私と姉が先頭になってお部屋に入る。ご先祖様をおむかえする時には言葉でのあいさつではないけれど、心の中で「いつも見守つてくださりありがとうございます。」ゆつくりしていつてくさい」と唱える。お棚には祖父が畑で作った色

のこい日光をたっぷり浴びた夏野菜をお供えする。和ろうそくの炎がゆらゆらと大きくゆれた時に「元気にしてる？準備ありがとう」と、まるで会話をしてくれているような気がする。私の心はとても温かくなる。そしてとても幸せな気持ちになる。私が0さいの時、よく天井のはしっこを見て笑っていたと家族が言っていた。その時はきつとご先祖様とあいさつをしていたのだろうと思った。あいさつは言ったもん勝ち。生きている人だけにたいしてではなく、ご先祖様にもつながる事なのかもと感じた。あいさつは人に言われるのを待つのではなく、自分からあいさつをする事が大切だと思った。

◎豊橋南ロータリークラブ会長賞

あいさつから始まる明るい家ていづくり

玉川小学校三年 高橋 唯斗

「あーねむたーい。」

とぼくは、ふとんの中でつぶやいた。きのうの夜にお父さんと山にクワガタをつかまえにいったから少しねぶそくだ。目を半分つぶりながらリビングに向かった。すると、

「ジュー。」

という音と、いいにおいがしてきた。しょうたいは、ぼくの大こう物のめだまやきをお母さんがやいていた。お母さんがぼくの方をちらっと見て、

「おはよう。」

といった。ぼくはまだねむたかったのでむしをした。するとお母さんが

とつてもとつても大きな動物のおたけびのような声で、

「おはよう。」

といった。ぼくはびっくりして、

「おはよう。」

と返した。今日は、学校でテストがあるのできょうからきんちようしていたけれどお母さんとあいさつをしたらいつのまにかきんちようがやわらいで安心していた。あいさつってふしぎだなと思った。

夕方になりお父さんがしごとをおえ、家に帰ってきた。ぼくは、いそいでげんかんまで走って行って大きな声で、

「ただいま。」

といった。お父さんはニヤツとわらいながらぼくの方を見て

「ただいまじゃなくておかえりだろ。」

といった。ぼくは、学校から帰ってきた時にお母さんに、ただいまというのでついついくせでお父さんにもただいまといってしまふ。お父さんは、

「つかれて帰ってきてても、ゆいにとただいまっていわれるとわらえてきてなんか元気するわ。」

といった。ぼくのあいさつで、つかれていたお父さんが元気になるなんて、ちよつぷりうれしいなと思った。それから、ただいまをきっかけに今日学校で楽しかったことを話した。あいさつをきっかけに家族とコミュニケーションが取れて明るく楽しい家ていづくりにつながっていると思う。

あいさつには、いろいろな力があると思う。あいさつをされるとほつとして心があたたくくなるし、声をだしてあいさつするとなんだかほくもいい気分になる。相手の顔を見てあいさつをすれば相手のへんかにきづくことができて、しんぱいしたり、はげますことができると思う。ぼ

くは、これからもあいさつをきつかけに家族とコミュニケーションを取ってスマイルいっぱいな家でいに行きたい。

また、ぼくが家でしている元気なあいさつを学校や地いきの人としてもスマイルいっぱいであたかいしゃかいに行きたい。

◎豊橋南ロータリークラブ会長賞

ぼくのたまごりょうり

汐田小学校一年 鈴木 葵士

ぼくのかぞくは、おとうさん、おかあさん、おねえちゃん、ぼくのよにかぞくです。

いつも、あさごはんをおかあさんがつくってくれます。ぼくは、たまにでてくるたまごりょうりが、だいすきです。その、おいしいたまごりょうりを、ぼくもおとうさんのために、つくってみたくまりました。

あるひ、おかあさんといっしょに、はやおきをして、あさごはんのたまごりょうりをつくることにしました。おとうさんのすきなたまごりょうりは、ちょうさずみです。おとうさんは、スクランブルエッグがすきといっているのをきいたことがありました。ぼくは、スクランブルエッグがどんなりょうりなのかわからなかったので、おかあさんにきいていっしょにつくることにしました。

さいしょにたまごをわります。これがいちばんむずかしいです。たまごのからがはいらないように、じょうずにわらなければいけません。ぼくは、しゅうちゅうしてたまごをわりました。とんとん、ぱかっと、きれいにたまごをわることができました。そのたまごを、よくまぜて、バター

をいれたフライパンで、いためます。しあげにケチャップを、たっぷりかけてかんせいです。

「おとうさん、あさごはんできたよ。ぼくがつくったんだよ。」とおとうさんをおこしました。おとうさんは、とてもよろこんでいつもよりたくさんたべていました。すると、となりにすわっていたおねえちゃんが、ぼくのスクランブルエッグをたべました。ぼくは、びつくりしました。おねえちゃんは、たまごがきらいでいつもたべません。「おいしいね。これならすこしたべれたよ。」といっていたので、うれしくなりました。またはやおきをして、あさごはんをつくりたいです。



壁新聞の部

土井
土井

芥子
七緒

平和について考える夏

戦後80年初めて広島へ

昔、日本が戦争していたこと、今も戦争をしている国があることは
もろもろ知っていた。けれども、戦後30年の今年、合戦国に入つたことさき、
常識の関て戦争が、到底いふことが出来なかつた。

星洲に、合戦国の
みんな合島旅行に
旅行のときはいつ
はるを借りま、合
はるにありこへい
くづたま、旅行ま
した。それ、旅行
前に、合島につい
べなり、戦争や厚
聞する手は読ん
した。

はアルト空の下
しちに歌うに
つらに大寒に
ます。声の
さすてへれたこと
貴神が
是れ父もよく歌
で、父も覚えて
て口ずさんで
あります。

平和記念資料館 見学
合戦国のみんな

心を打たれた。こ
ていまた。あは、
ぼろに、あは、
一瞬で街の
ように、あは、
たこと、あは、
味は、あは、
道の、あは、
す、あは、
す、あは、
す、あは、

[illegible]

東田小学校
5年 土井 夏子
2年 とい 空お

お風呂のバスタオルは洗剤で洗って乾かす。

洗濯機 洗濯機

37

洗濯機で洗ったバスタオルは、洗濯機で乾かす。

洗濯機で洗ったバスタオルは、洗濯機で乾かす。

洗濯機 洗濯機

49

洗濯機で洗ったバスタオルは、洗濯機で乾かす。

洗濯機で洗ったバスタオルは、洗濯機で乾かす。

洗濯機 洗濯機

88

洗濯機で洗ったバスタオルは、洗濯機で乾かす。

洗濯機で洗ったバスタオルは、洗濯機で乾かす。

洗濯機 洗濯機

23

洗濯機で洗ったバスタオルは、洗濯機で乾かす。

洗濯機で洗ったバスタオルは、洗濯機で乾かす。

洗濯機 洗濯機

73

洗濯機で洗ったバスタオルは、洗濯機で乾かす。

愛しみにしてはいた「ダ
 ィヤキヤン」の、母ロサ
 アデンスに見えぬ「人
 とは」を「送」る。中
 央高校時代、さら
 に「四」に「ト」達を
 送る。

られた。豊城の「て
 濡れた」を「た。
 初め「て
 野球観戦は
 最高の思
 い」に「た
 高」に「た
 中央高校

上野の夢子「高

[illegible][illegible][illegible]

た新聞になつた。

あとがき

七緒「ごいピンチずの
ん」の終幕をかくのをが
ば、た。D・Yのネ

も自分自身で思いついたもの
歌うことにしました。
今宵劇の本番は五月
です。見えてきた人
前よりも手帳に書いて
書えるように空さく
れたらしいことを思いま
す。お運のウオーニ
VOエコー」が居なさ
るようです。

學者の如く和記を以て
 て英語のダイドとして
 いふに、物と
 様とをいふは、
 誤解を起すべし。物
 の、こよれ、たけ、
 けは、つぎの如く
 行動といふこと
 一つのみ、
 事実に思ひ込
 ること、
 平明の言ひ、
 の言ふより、

平和への誓い
one voice

色んな
ことに

KidZania



お金をかせぐって
お金をたたく

サッカー



料理



田うえ



トライ

あつたけど、かんだん
上手になつてきました
今は8の字走行を練習
中です。早くほじょ
りんが外れるようにか
んばつてね。

ドイツにきょうみ
しんしん

家族でリトルワールドに行き、色んな
国の家・服・食べ物を体験しました。

が、たのがドイツ館の
白いソーセージです。
はんべんのようにふ
わ、としているけど、
お肉の食感もあ、てふ
しどな味でした。しら
べてみると、ケアイス
グルスト」という名前
のソーセージで、ミュ
ンヘンの名物でした。
また食べたいいし。
と言。たら、お父さん
が豊橋にあるドイツ料
理のお店に連れて行、
てくれました。やっば
りおいしい！
も、としらべてみる
と、ばくのすむ豊橋市
とドイツのケイルス



ブルグ市は友こうしよ
い智布どと分かりまし
た。ほくのおじさんが
ドイツのおみやげに大
好きなハリホーをくれ
たことも思い出し、ド
イツを身近に感じまし
た。いつかドイツに既
て本場の「ヴァイスグ
ルス」といッか食べたいで
す!


なぞの白いソーセイジ
ヴァイスヴルスト



が Challenge Eiken grade 3

ばくは1年生から英語教室にかよっていて、
 さいしょはとまどいもあったけど友がちもでき
 て毎回来ています。ディッチャーにすめられ
 て、英けんにもあそびしています。
 知らないじゅく語が出てくると会話文が読め
 なくて、むずかしいです。たん語をノートに書く
 こととリスニングをくり返しています。
 目と耳だけじゃなくきこも使うのがポイント
 だともいます。リスニングが一回し流れな
 くてゲームズけど、コソコソと
 かんばってう年生のうちに合かく
 したいです。

市松 会穂



I want to get EIKEN
Grade 3!



がんばれ！
かおりちゃん



あとがき

一年生がけ学校でも
家でも色んなことに挑
せんしているの、今
回のタイトルは、やっ
てみよう！にしました
やってみることで分
かることや、新しく空
ぶ乗しきと感じるよう
になりました。



なかま
リレー
マラソン

ようち園のころから
マラソン大会に出てい
て、今では3km走れろ
うようになりよした。カ
だめしに6月に豊川リ
レーマラソンに豊川リ
レー2km走2周走りよ
した。暑くて苦しいと
きもみんなの応援が
力になったので、僕も
たくさん走えんして、
なんと今時間ギリギリ
にゴールできました。

りんりん

幸小学校 4年 鈴木 奈湖

令和7年 8月30日

りんりん

第1号

大ピンチ

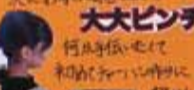
緊急入院!



夏休み、お母さんが急に
病気で入院してしまいました。
お母さんが入院してからは、
お父さんがお母さんの代わりに
お世話をしています。



お母さんが入院してからは、
お父さんがお母さんの代わりに
お世話をしています。



お母さんが入院してからは、
お父さんがお母さんの代わりに
お世話をしています。



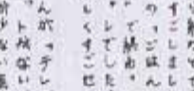
お母さんが入院してからは、
お父さんがお母さんの代わりに
お世話をしています。



お母さんが入院してからは、
お父さんがお母さんの代わりに
お世話をしています。



お母さんが入院してからは、
お父さんがお母さんの代わりに
お世話をしています。



お母さんが入院してからは、
お父さんがお母さんの代わりに
お世話をしています。



お母さんが入院してからは、
お父さんがお母さんの代わりに
お世話をしています。



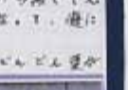
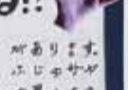
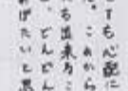
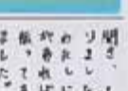
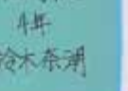
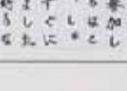
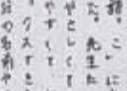
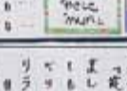
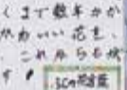
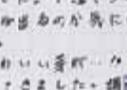
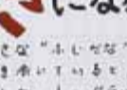
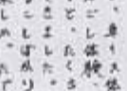
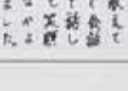
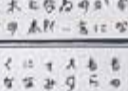
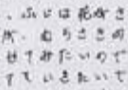
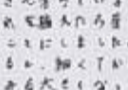
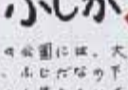
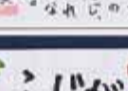
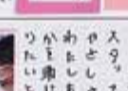
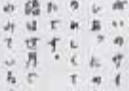
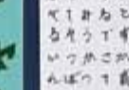
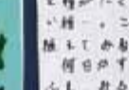
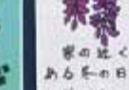
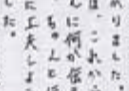
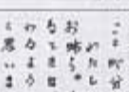
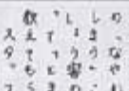
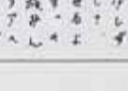
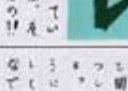
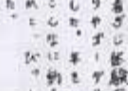
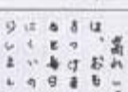
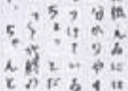
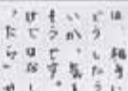
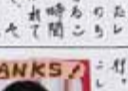
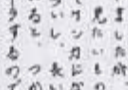
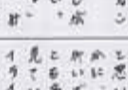
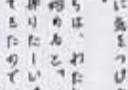
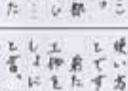
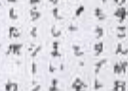
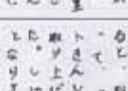
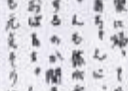
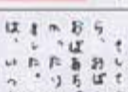
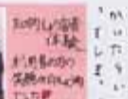
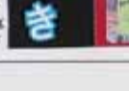
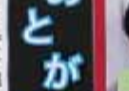
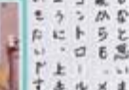
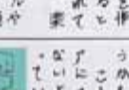
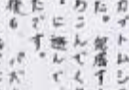
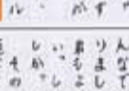
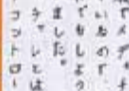
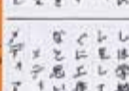
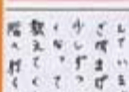
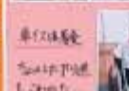
お母さんが入院してからは、
お父さんがお母さんの代わりに
お世話をしています。



お母さんが入院してからは、
お父さんがお母さんの代わりに
お世話をしています。

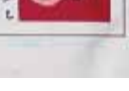
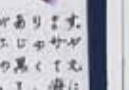
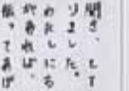
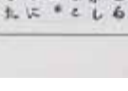
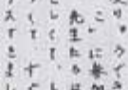
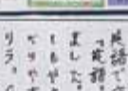
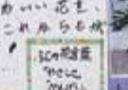
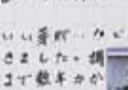
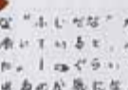
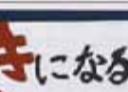
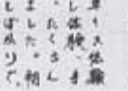
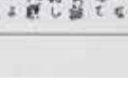
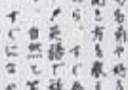
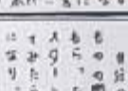
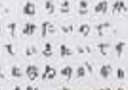
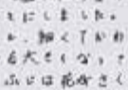
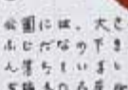
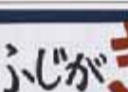
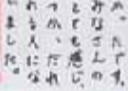
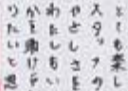
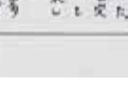
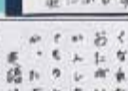
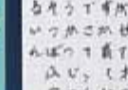
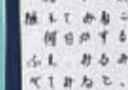
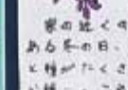
2025 夏休み

わたしの挑せん!

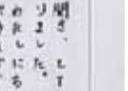
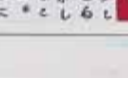
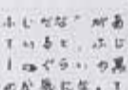
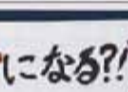
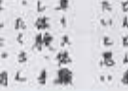
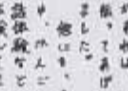
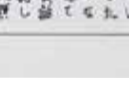
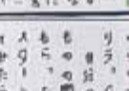
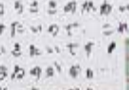
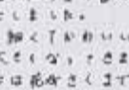
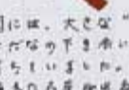
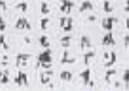
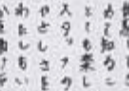
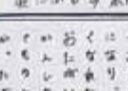
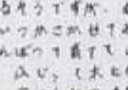
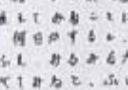
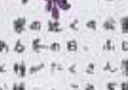
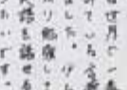
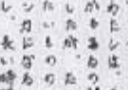
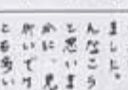
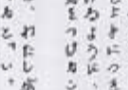
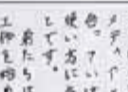
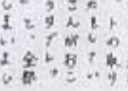
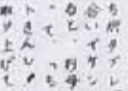
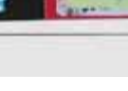
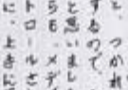
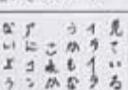
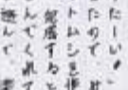
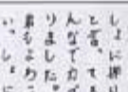
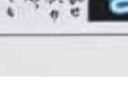
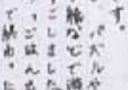
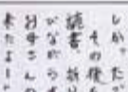
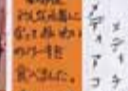
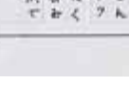
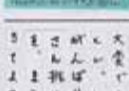
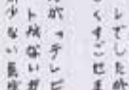
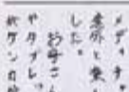


初めての福祉体験

わたしの体験は、ボランティアで福祉体験をする。夏休み、お母さんが病気で入院してからは、お父さんがお母さんの代わりにお世話をしています。



家族でメデイチャレ



ひまわり

汐田小学校
三年
高さか こと葉

いざというとき大丈夫？ 

わが家みなおし隊



ひびく(さし)て聞えました

家に帰る。それから、つなみけいほうの話をし
ました。おチんはんは
学校で静かとしてい
三かいへなんしたて
ています。もし
家にいるときだった
らどうすればいいの
か。一人た、たどうす
ればいいのか。ちん
は話したほうがいい
ということになり、
おチんはんは金さ
らくてここにしま
す。まずじめに、
ミハバードを、ア
ながら、どこにいろ
うかがふないかを
しめた。おチん
はんの家はおチん
はんがくち学校は
からあふないこと
がわかった。それ
から一人た、た
たい一人なんじ

「つなみがある」と言われたら、どこへに行けばいいのう？と聞いてきたために、家まで行ってさういふ会費をやらなくことにしました。



と文のせいりをしました

ほうさいかいぎだ

お母さんの仕事がいそがしそうなので、何かお手つだいをして、と考えました。ソレで、理がや。てみたくて、お母さんに聞いたら、おみそしるならいつも

そしるつくり

りにかかったんです。
つぎにガスコンロに
なべを置いて、火をつ
けました。どんなふう
に火がつくのか、はじ
めてわからなかつた。
のできごきをしました。



わんぱく/77 せかい/おとこ

らだしとあぶらあげ
をに入れて火をよめて、
卵をを入れてました。お
たまでかきまぜたら、
味見をしました。いつ
もと同じ味にな。たと
思いました。さいごに
わかめを入れてかんせ

いしました。いがいと
かんたんにつくれるな
と思いました。
ばんごはんのときに

ました。でもまだおもしろい物は持てないのだから、これからお手つたいをしていきたいです。



at the

ずめんかは、お昼ご
 したにみんなで食べま
 した。家をくまぼうやに
 せをきく、いざいとい
 うときこまらないうに
 じんぱんすることが大
 切だと思いました。テ
 スト。グーしてあるもの
 の使用をけんやしょう
 味さげんこれからま
 ず。グーしていきます。

いざというときのひじょう食になるの？ 家づくりはせき 13人にきく

家にストックしたい おかしランキング

- [illegible]

たすけあい

六月のおわりごろ、
おばあちゃん、右の手が
重く、せつしてしまいました。
また、いつもわたしたち
たちのおおばあちゃんに
くわゆるおばあちゃん、
がをしてしまひ、とて
も、くろしりました。

おばあちゃん、はいつ
も、ばんごはんのおかき
を手づかして、くれるの
が、つつかえないの、
り、う理ができません
とて、おかしな、
マコとて、うりや、
て、わたしが、もりつけ

たすけあい

10

ダブルシュート！

豊小学校4年

澤野

瑛斗

豊小学校1年

澤野

拓斗

令和7年8月29日
ダブル シュート！
第4号

心の兄弟 3ヶ条

はーい！

こころの兄弟は、

1. 心をこめて話す

2. 心をこめて聞く

3. 心をこめて行動する

心も 体も パワーアップ！

ダブル シュート！

家族つなぐ

ぼくたちは、今年に入ってから、サッカークラブに加入しました。毎週、練習があります。最初は、なかなか上手に蹴れなかったけど、先生や先輩の指導のおかげで、少しずつ上手になりました。家族と一緒に練習する時間も、とても楽しいです。

できるかな？ぼくたちの電車旅

人生初の子どもだけの電車旅！お父さんお母さんの力を借りずに目的地まで送りつけるか？

四年生は、この夏、家族旅行で、電車に乗りました。初めての電車旅、緊張しましたが、お父さんお母さんのサポートで、無事目的地まで到着しました。

サッカークラブ

ぼくは、今年に入ってから、サッカークラブに加入しました。毎週、練習があります。最初は、なかなか上手に蹴れなかったけど、先生や先輩の指導のおかげで、少しずつ上手になりました。家族と一緒に練習する時間も、とても楽しいです。

心のいやし

ぼくは、今年に入ってから、心のいやしを学んでいます。先生から教わったように、深呼吸をしたり、お風呂に入ったり、お気に入りの音楽を聴いたり、心が落ち着くようになりました。

あともがき

今年の夏休み、ぼくは、家族と一緒に、山に行きました。山には、きれいな景色と、新鮮な空気がありました。家族と一緒に、山歩きを楽しみました。

あともがき

今年の夏休み、ぼくは、家族と一緒に、山に行きました。山には、きれいな景色と、新鮮な空気がありました。家族と一緒に、山歩きを楽しみました。

ブロック
大好き2



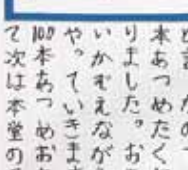
所が、いぬ、家しきうに作つて
いたからか二もいさゝし
あふふ。 優子



ロボット



48. FRANK



平教支ら互に11

いっしょに
あそぼう!

ばくは夏休みにお母さんと双子のお姉ちゃん達と豊川の交通児童館に行きました。おちちやがいはいで楽しくて、ふだんお母さんに「どうだ、た？」と聞かれても「か？」と答えない時があるけれど、おもしろかったことをむちゅうになつて話しました。あしたも来たいなとお母さんに言う。一週間後に来ようと言ってくれました。なかもウノとサッカーゲームが楽しくて早くあそびたたく

ったまうなくなり、
 いには作ってみよう
 と思いました。ばくど
 「サツカーゲームは
 んなつくりだ。たか
 と言うと、お母さん
 調べてくれて今もが
 ば、で作っています
 ウノは家にあるもの

やる気

おばあちゃんの家
 おきです。おぼん
 うじのお手依に行
 ました。ばくはあま
 をうじが好きではあ
 ません。だからばく

「お母さんが100才
つめてそうじがおか
たうお菓子を食べ

うしです。こつて
ちのぞうきんの目
ろ。ばくなるかと
うしです。こつて
ちのぞうきんの目
ろ。ばくなるかと

は、ど
がく
をよ

かな、

ここに
に満

「あやび」の
でまじもまよめ

けど
 を打
 教室に
 さん
 なり主
 姉
 ます。

のでや
 です。

テー
 ました

吉

家族であそべるよ

会話は笑顔につながる

みなさんはどんなあそびが好きですか。げんくは、あそびに行けた先で楽しかったおもちゃを作って、家族であそんでみました。



かそくと
プログラミング

ばくはプログラミングのビスケットというソフトがすごく学校の先生にもぐらたたきゲームの作り方を教えてもらったのがきっかけです。今まで作った中では、あばけがいろいろゲームがお気に入りです。いいゲームが作れると家族もたのしんでくれるのでうれしいです。



やってよかった
卓球を

車球をやってみようよとお母さんのさえいで夏休みの車球教室に参加しました。お父さんは家でみんなできるところにと車球ピットを用意してくれました。

やる気を出すには

じです。ここではど
のをうきんの邑がく
びくなるかをきき
やうしました。そ
うをつかんで上キ
そうじできるよう
にきました。おい
ちんもよろこんで
たので手伝いをし
てくれました。



「あえび」のテーマで
てそじもまとめました。
だい一号よりいい作
品がでるようになります。
ばりました。かぞくで
またあえびたいです。

渚

27

ドキドキ

東田小学校3年 西川 柚希

2025年 8月31日

「ドキドキ」

第3号

ゆづき
の
かんたんクッキング



① じゃがいもを煮る
じゃがいもを洗って、皮を剥いて、一口大に切ります。鍋に水を入れて、じゃがいもを入れて煮ます。煮えたら、お醤油とごま油を加えて混ぜます。



② じゃがいもを揚げる
じゃがいもを洗って、皮を剥いて、一口大に切ります。油を熱して、じゃがいもを入れて揚げます。揚げたら、お醤油とごま油を加えて混ぜます。



③ じゃがいもを炒める
じゃがいもを洗って、皮を剥いて、一口大に切ります。油を熱して、じゃがいもを入れて炒めます。炒めたら、お醤油とごま油を加えて混ぜます。

わたしの 9才のおたん生日プレゼントに...



おばあちゃん家は、わたしの大好きな場所です。おばあちゃんの家には、たくさんの思い出があります。わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

おばあちゃんの家には、たくさんの思い出があります。わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

ドキドキ

東田小学校
3年
西川 ゆづき

おばあちゃん家の「ピアノ」を...

おばあちゃんの家には、たくさんの思い出があります。わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

おばあちゃんの家には、たくさんの思い出があります。わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

おばあちゃんの家には、たくさんの思い出があります。わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

やとと会えたいとこ

わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

おばあちゃんの家には、たくさんの思い出があります。わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

おばあちゃんの家には、たくさんの思い出があります。わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

はじめてのお茶会

わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

おばあちゃんの家には、たくさんの思い出があります。わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

おばあちゃんの家には、たくさんの思い出があります。わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

おとがき

わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

おばあちゃんの家には、たくさんの思い出があります。わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

おばあちゃんの家には、たくさんの思い出があります。わたしの9才のおたん生日プレゼントに、おばあちゃんの家をプレゼントしたいと思います。

壁新聞の部

東田小学校
6年 袴田夏妃
4年 袴田彩夏

東田小学校
6年 袴田夏妃
4年 袴田彩夏

気分もリフレッシュ

[illegible][illegible]

私たちの誕生日は、夏休み(8月1日)と
初夏(8月10日)です。夏休み中とい
うこともあり、たくさんお祝いし
てもらいました。うれしがたです☆



おはようございます。
ケーキを食べて
元気な一日を
過ごしましょう。

映画を観
に付いたよ。
ホップ・スキャンを
ショップで買
楽しかったー

[illegible]

べんちが止まり
した。実は
納豆を作りまし
たをゆでて味



たくさん夏野菜
て夏バテ解

あ

くんの成長
ました。毎朝
らどきは、大
師味にいた
大きく、ア
うれしくなり
うの足を和
えきは、黄色
いだんとい

た。いかに

グをしました。
リマンを愛。て
オロ、びに探
す。食材を細切
るのむずかし
い。味付けを
たぬたら、あ
間に完成しまし
まからいタレ作

消!!

に、
オス

食 不

し。シ。下。き
このように
ブルは変し
何事も行く
しいです。な
でもブルに
水産師やま
での水産ひき
フシ。シ。レ
これから
から。きい
えすいたい

品名か生

もて無き日
には、ち毎
時宜所赤
いにたのす
さ切しりて
小大輪がい
がもにばい
ち今うたわ
た。それを
私をホマて
しの星く

その 毎なにし
しど もにま新
うほ、シ置き、
を匹すぬ、た
の20まトリおま
う、いづなら
てはで力にか
あ今い、ぎ土
う、漁たなに
たすでまさ気
んま中、ら元

の人は、
し、
上、
軍、
受、
た、
ス、
も、
した、
得、

[illegible]

動物大

み別。さ
トをた小
ブ紳しな
カ、まて
とはし。
ぬ力助と
デで成し
メにはま
たす。化
にふだや
主にメサ

か、はむ
宝ちにし
幼年夏実
今のが
わ、年の
産す来ら
をま、す
解して生
が化し誕
ス羽そが
メと、幸

る。よ。に。し。か。と。み。
う。を。し。て。い。さ。い。す。
る。よ。に。し。か。と。み。
う。を。し。て。い。さ。い。す。

とがき

二学期には、
習があるのて
うも練習を続け
るば、ていまた
ます。

りや、筆の勢が
どうもむずか
にです。半年が
につれ、課題の
すかしくなり大
れど、あきらめ
てしめてしまし
まに、アトバイ
らしいながら喜
時間のかかりま
最後にはな
く作品が、此来

「それは、習字を習
います。そこで、
体みの宿題です。
筆を使え。た作
サクレンダして
いつもとはち
がうて、大きな筆
を使います。の

豊橋南ロータリークラブ60周年特別事業

明るい家庭づくり フォト&メッセージコンテスト

受賞者一覧

受賞者

・豊橋市長賞

牟呂中学校3年 山田 倫大(やまだ ともひろ) さん

「普段は言えない心の声」

・豊橋市議会議長賞

松山小学校2年 中川 誠都(なかがわ まさと) さん

「みずでっぼうたいかい」

・豊橋市教育委員会賞

松山小学校5年 中川 実桜里(なかがわ みおり) さん

「夏のくつとばし」

・豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

多米小学校4年 鈴木 蒼依(すずき あおい) さん

「さいげん旅行」

・豊橋南ロータリークラブ会長賞

旭小学校1年 矢野 陽梨(やの ひより) さん

「にっこりこはる」

・豊橋南ロータリークラブ特別賞

東陵中学校1年 朝倉 いずみ(あさくら いずみ) さん

「夢追う後ろ姿」

南部中学校1年 大橋 湊斗(おおはし みなと) さん

「太陽」



【作 者】 山田 倫大

【学校名・学年】 牟呂中学校3年

【作品タイトル】 普段は言えない心の声

【メッセージ】 いつもはケンカしてばかりの妹ですが、この日は一緒に自転車のタイヤの空気を入れ、サッカーの練習に行く後ろ姿を見て「暑い中、すごいなあ」と思いました。いつもは恥ずかしくて言えないけど、心の中で「頑張ってこいよ」と思っていました。

◎豊橋市議会議長賞



【作 者】 中川 誠都
【学校名・学年】 松山小学校 2年
【作品タイトル】 みずでっぼうたいかい
【メッセージ】 わが家のなつといったら水でっぼうたいかいです。おかあさんはしんぱんで、お父さんとおねえちゃんと、ぼくでやります。これを一かいでもやったらやめられなくなります。わが家でいえなつのフェスティバルです。みなさん！やってみてください！

◎豊橋市教育委員会賞



【作 者】 中川 実桜里
【学校名・学年】 松山小学校 5年
【作品タイトル】 夏のくつとばし
【メッセージ】 夏の夕方、家族みんなでお散歩中に見つけた公園でブランコ競争をしたよ。「どっちがいっぱいこげるかな？」とこいでいると、私のくつがとんでった。みんな大笑い。何度も何度もくり返し遊んだくつとばし。

◎豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞



【作 者】 鈴木 蒼依
【学校名・学年】 多米小学校 4年
【作品タイトル】 さいげん旅行
【メッセージ】 15年前に、パパとママが2人でいった和歌山旅行を、夏休みに家族4人で行ってきました。パパとママが二人で、とった写真と同じ場所、同じポーズで4人でとったり、同じホテルにとまりました。15年後、また4人で来ようねと約束しました。楽しかったです。

◎豊橋南ロータリークラブ会長賞



【作 者】 矢野 陽梨

【学校名・学年】 旭小学校 1 年

【作品タイトル】 にっこりこはる

【メッセージ】 いもうとがかいたおはなのえがなんと！しゃくしょにかざられていて、すごくうれしかったよ。えといっしょにとったこはるのえがおは、ちょうちょみたいであかいおはなのえにぴったりだったよ。これからもいっしょにおえかきをしようね！だいすきだよ。

◎豊橋南ロータリークラブ特別賞



【作 者】 朝倉 いずみ

【学校名・学年】 東陵中学校 1 年

【作品タイトル】 夢追う後ろ姿

【メッセージ】 野球道具、教科書、お弁当、大きな水筒、たくさんの荷物を持って自転車をこいでいく後ろ姿。毎日、朝早くからがんばってるね。時々、勉強を教えてくれてありがとう。いつも応援しているよ。お兄ちゃん、今日もがんばってね、いってらっしゃい！



【作 者】 大橋 湊斗

【学校名・学年】 南部中学校 1 年

【作品タイトル】 太陽

【メッセージ】 生きている時にしか出来ないこと。太陽に手をすかせること。

壁新聞作成のポイント



家族で楽しく新聞をつくりましょう

新聞づくりは時間がかかりますが、作品ができあがったときのうれしさは格別です。家庭で話し合いながら作れば、家族の絆も今以上に太く強くなるはずです。難しいところもありますが、とにかく楽しみながら作りましょう。

複数の記事を一枚の紙面に掲載しています。一つ一つの記事が区別できるように、紙面をレイアウト（記事や写真の割付）します。レイアウトの基本はX型、紙面右上から左下へと流れていきます。見本を参考にして、たくさんの人が読むことを意識して、読みやすくてきれいな作品を仕上げましょう。

第〇号

〇〇年〇〇月〇〇日

ヘッダー：新聞名(題字)や発行日、号数を書く。

題字：自分の思いがこもった新聞名を決める。「さわやか」「きずな」などと、「〇〇新聞」と「新聞」をつけないのが一般的。

題字下：発行年月日、学校名、学年・組、発行者名などを小さめの字で記入する。

見出し：記事の内容を表す短い言葉、記事を書いた後の方がつけやすい。客観的な見出しは面白みに欠け、主観的な見出しは記事の内容が分かりにくいので、上手く組み合わせるとよい。大きな見出しが、かぎ見出し。太目の字やレタリング、色づかいで目立たせるとよい。

リード：記事の内容を短い文で要約したもの。「新聞は、見出しとリードと本文で三度読ませる」。

トップ記事：家族の良いところ、家族での取り組み、自分の思いや家族の願いを伝える記事を書く。トップ記事は、記事のスペースが広く、大きな見出し、リードがついている。

キャプション：写真などに短くコメントを加えると分かりやすい。

カコミ記事：面白い出来事や失敗談など、軽めの記事を載せる。カコミの線は飾り罫線で一文字分使う。飛び越し、飛び降り、文字無し、何でもあり。

編集後記：家族での取り組みを行った感想や、新聞を作った感想などを記す。

枠罫線：紙面の外側に線を引くと紙面がひきしまる。段罫線や枠罫線は、清書が終わり仕上げの最後に引くとよい。

段罫線：段と段の間に細い横の罫線を引くと読みやすくなる。カコミ記事の中は、段罫線を引かないのが一般的。記事を区別する線ではない。間違えやすいので注意して引く。

写真やイラスト

サブ記事

カコミ記事

三篇記事

編集後記

第43回 明るい家庭づくり推進大会

令和8年2月1日（日）午後1時30分

豊橋市 公会堂

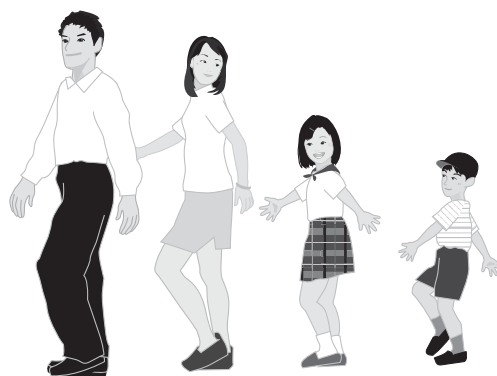
〈主 催〉

豊橋市 豊橋市教育委員会

豊橋市小中学校 PTA 連絡協議会 豊橋南ロータリークラブ

プログラム

- ◆ 開 会
- ◆ 主催者あいさつ
- ◆ 来賓祝辞
- ◆ 豊橋市長賞作品発表
- ◆ 表彰式
 - ・ 豊橋市長賞
 - ・ 豊橋市議会議長賞
 - ・ 豊橋市教育委員会賞
 - ・ 豊橋市小中学校 PTA 連絡協議会長賞
 - ・ 豊橋南ロータリークラブ会長賞・特別賞
- ◆ 閉 会



壁新聞・フォト&メッセージの優秀作品を
豊橋市公会堂で展示します！

毎月第3日曜日は「家庭の日」

話さなくてもわかり合える関係を築くのは、簡単そうで難しいものです。
夫婦間、親子間で何でも話せる家庭づくりには、あいさつや日々の会話を
増やしていくことが大切です。
さあ！はじめましょう。あなたの家の「家庭の日」。

毎月第3日曜日は『家庭の日』

令和7年度 明るい家庭づくり優秀作品集

発 行 令和8年2月1日
編 集 豊橋市教育委員会生涯学習課
(☎ 51-2846)